

生命の尊厳と地球環境蘇生運動に向けて
STSプロジェクト東京支局たより

ハーモニー ウェーブ
Harmony Wave

Vol. 38 2018年6月

発刊元: (株)エステーエスプロジェクト 東京支局
〒108-0023 東京都港区芝浦2丁目17-10 新大友ビル6F
TEL:03-6435-3428 FAX:03-6435-3429
ホームページ: <http://www.stspro.com/>



地球環境蘇生セミナー 東京 2018年5月20日(日)
生命の水で大衆運動

今年2回目の開催となった東京セミナー。予定数を大幅に超え、冷房を最大限に効かせても冷めやらぬ202名の熱気が会場を包んだ。

講演内容は、環境問題から革新的な農業について、真実を見極める極意など多岐に渡った。初めての参加者が全体の二割弱に及び、セミナー参加経験が豊富な会員でも唸る内容だっただけに、初めての方にとっては驚きの連続だったのではないだろうか。

◆天災ではなく人災

20年前に山形、秋田、青森の海岸線で何百kmに渡り、松が枯れるという現象が起こった。「松くい虫」の害と見なされ、一斉に伐採された。だが、その判断は本当に正しかったのか。

当時、上海を中心に中国の重工業が発展し、その排煙に含まれる大量の硫酸系のガスが偏西風により日本海側に到達していた。時間にして13時間半。その有害物質が松枯れを引き起こしていた張本人だ。

人間は酸素でエネルギーを燃やす生き物であり、吸う空気にPM2.5やガス体が

混じっていると、肺の状態が悪くなる。事実、昨今はガンの中でも肺ガン率が高くな

ってきている(国立がん研究センター調べ)血中にはヘモグロビンという物質があり、ヘモグロビンには四つの手がある。その四つの手で肺に入った空気からO₂を掴んでいるのが正常な状態。だが、その手に有害物質が掴まれていると、正常に酸素を送ることができなくなる。

◆酸素を奪う

近代農業

人災は大気汚染だけに留まらない。東京の雨も強酸性の3・0を示し、放射性物質の

含有も危惧されている。そんな雨水が降り注ぎ、地下水や井戸水が汚染されている。さらに、近代農業の間違った手引きにより、有機質肥料を撒くことを止め、化学肥料を撒き始め、水源の汚染が加速した。「硝酸態窒素」(※裏面に補足)という形態をとつて

いる化学肥料は、人体に入ると大気汚染物質と同じく酸素を奪い、体の臓器が酸欠状態になる。細胞の中で一番酸素を使うのはミトコンドリア。このミトコンドリアが運ばれてきた酸素をエサにして生体エネルギーの原動力を作っている。赤ちゃんに、硝酸態窒素が含まれた地下水などを与えると、酸欠により脳の成長を止めてしまう。生命という方向を見た農業が求められる。

◆一段飛ばしの

農業の弊害

それほどに危険な農業をなぜ農家は使



会場にて優雅石鹼を泡立てする様子

うようになったのか。有機質肥料を畑に撒くと、それをエサに数多くの微生物がそれぞれ固有の働きをし、団粒化構造、つまり、水はけと保水性の両面を備えた理想的な土壌を作る。この代わりに化学肥料を撒くと、肥料が水に溶けて低分子になり、光合成作用により水がポンプ式に押し上げられ、窒素、リン酸、カリウムが直接吸い上げられてしまう。一見、便利のように見えるが、これは一段飛ばしの農業であり、この構造では微生物が必要なくなり、団粒化構造を壊していつてしまう。

そして、毎年撒かれる化学肥料が蓄積し、地下30cm辺りが岩盤のような固い層になる。こうなると植物は根を伸ばすことができず、さらに肥料を多く撒かなければいけなくなるという悪循環に陥ってしまう。

植物たちは動くことができない。何億年もの歳月の中で熱い環境や寒い環境をどう生き抜いてきたのかというと、地上部は枯れても、根は団粒化構造に守られて枯れないという仕組みを作り、微生物と共存してきたのだ。この団粒化構造があればこそ干ばつや、大洪水が来ても対応できる力を持つ田畑になる。

常、稲は、台風や強風で一旦折れてしまえば、水が吸い上げられず枯れてしまう。HW育ちの稲は柳のようにしなり、倒伏したように見えても水を吸い上げることができ、また立ち上がることもできる。

◆生命を司る水

自然界のどこから自然のどこからアルカリイオンの水は湧いてこない。磁気水も流れていない。生命に貢献する水の条件とは何か。

我々は元素でできている。動物単体で35種、植物も入れて41種類の元素で私たちの生体は出来上がっている。水の中に41の元素をどうやって入れるか、これが大事。HWには41の元素が入っており、この元素が5500種の腸内細菌を活性化させる。STSの科学で元素を組み合わせると、鉄や亜鉛が150や250の顔を持つ元素となり、バクテリアを発生させそれが腸

内フローラとなる。そして酵素を作っている。その酵素が豊かだと腐敗発酵しない。農業でいう団粒化構造が生体内にも当てはめられ、土の中と腸内は兄弟のような働きをする。良い水や名水と呼ばれている水でも、我々の30億のゲノムの中で経験したことが無いものは異物反応になってしまう。HWは沢山飲んで水っ腹にならず、吸収される。それは、臓器が生体水と判断し同調するからだ。それが生命に貢献する水である。生命を司る水には明確な科学的根拠がある。

◆生命を中心とした消去法

このような、革新的な技術はどうやって生まれるかというところ、生体水を一点ではなく360度あらゆる角度から立体的に検証し、一つ一つ何千、何万通りと消去法を使って真実を見極めること。その判断基準



は、「生命にとってどうなのか?」「生態系にとってどうなのか?」「遺伝子にとってどうなのか?」「という生命を中心とした消去法。そうすると、生命の水を作って、世の中に撒く!これが社会を変える一番簡単な方法で一番貢献度合いが高い大衆運動だ。これからは、水道水が自宅の敷居を跨いだら、生命の水に変換する装置が必要。濾過して、無い物は足し、イオン化結合という超微細なプログラムで水を作り変えることが必要。私たちはそのことに気付くことが大事。水にはとてつ

ない可能性がある。いつか社会が安定したら、水で車を走らせましょう!

希望に溢れる講演内容に惹きつけられ、ある時は真剣に、またある時は代表のユーモアに笑いが溢れ、いつしか会場が一体となるようなセミナーだった。『安心して飲む水は自分でつくる時代』これはホームページにも掲載されている文言なのだが、本当に今、そんな時代にいることを気付かせてくれる目の覚めるような内容だった。

希望に溢れる講演内容に惹きつけられ、ある時は真剣に、またある時は代表のユーモアに笑いが溢れ、いつしか会場が一体となるようなセミナーだった。『安心して飲む水は自分でつくる時代』これはホームページにも掲載されている文言なのだが、本当に今、そんな時代にいることを気付かせてくれる目の覚めるような内容だった。

〈補足〉

※硝酸態窒素は、体内に入ると血中のヘモグロビンと結合し、メトヘモグロビンという物質に変化する。このメトヘモグロビンは、酸素を運ぶことが出来ないヘモグロビンでこの量が増えることにより、酸欠状態が起きる。赤ちゃんが硝酸態窒素を含んだ水を摂取し、酸欠で体中が青くなり死亡する前例も出ている。一般的にブルーベリーの症候群と呼ばれている。また、硝酸態窒素は農業が盛んな地域の地下水から多く検出されているが、水道水から検出される場合もある。さらに、硝酸態窒素は揮発性がないため、沸騰させても、逆に濃縮してしまうことになり、煮沸させたら安心という考えは見直す必要がある。

〔編集後記〕

梅雨に入り、曇り空が広がる。しかし心は晴れやかに蘇生運動を進めていきましょう。その雨がHWに変わるように。



【あじさい】

2018年6月~2018年9月 セミナー日程 (13:30~16:00)

| | | |
|----------|---------|----------------|
| 6/17 (日) | 大分セミナー | ピーコンプラザ 3F |
| 7/8 (日) | 名古屋セミナー | AP名古屋・名駅 6FP+Q |
| 8/19 (日) | 福岡セミナー | 福岡国際会議場 5F |
| 9/2 (日) | 東京セミナー | グランパークプラザ 301 |

支局では、ハーモニーウォーターのお試し水汲み、学習会を行っています。日時詳細や内容はメールでお知らせしています。